

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 30 日現在

機関番号：42307

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24510364

研究課題名(和文) 閉じゆく家、開きゆく家：マレーシア多民族社会における家構造の通時的多元的比較研究

研究課題名(英文) Closing House and Opening House; A Diachronic and Pluralistic Study on 'House Structure' in the Societies of Malaysia

研究代表者

三浦 哲也 (MIURA, Tetsuya)

育英短期大学・その他部局等・准教授

研究者番号：80444040

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、マレーシアにおける複数の民族集団の「家」の特徴の通時的・多元的な比較研究を行った。「家」を、家族の成員に限らないさまざまな人々が多様な人間関係を実践する現場として捉え、そこに内包される人間関係の発展に応じてそれ自体の形態と構造が変化する動的なものとして分析を行った。そこから、「家」においては、容器(建築物としての家屋)とその中身(家財とその配置)、これら二つを構成する力学(そこで実践される人間関係)の三者の交互関係に、各民族集団の特徴が現出することが明らかにされた。また、「家」における実践のうち、特に食に関わる実践が社会関係のダイナミクスに大きく影響していることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This study focused on the character of "House" within multiple ethnic groups diachronically and pluralistically. A "House" is analyzed as the place of practice for a variety of families and non-families relationship, which has dynamic structure changing to form depending on the development of human relationship belonging to itself. From this analysis it revealed following: characters of each ethnic group appear alternating relationship of a container (house as a building), its contents (household goods and their placement), and dynamics constituted by above mentioned two elements (practice of human relationship). Also, practice relating to food has significant impact on the dynamics of social relationship, within the various practice of "House".

研究分野：文化人類学

キーワード：マレーシア 家 親族 地域研究

1. 研究開始当初の背景

マレーシアは、マレー人(ブミプトラ)、中国系マレーシア人(華人)、インド系マレーシア人、そして多くの少数民族(ブミプトラ)から構成される多民族国家である。と同時に、それぞれの民族はそれぞれに固有の文化的・社会的特徴を維持している「複合民族国家」である。1990年代以降のマレーシアは、それまでの同化主義に基づくマレー人優遇政策から、多文化主義に基づく「マレーシア国民」の創出への転換を目指しており、「マレーシア人」というアイデンティティの創出が国家政策の中心に据えられるようになった。そのような背景の下で、新規に造成される住宅地や集合住宅においては、民族混住が政策誘導されている。しかし、旧来の村落は、各民族別の居住形態をなしており、同じ「マレーシア人」であっても、伝統的村落に他民族が移り住むことは難しい。また、新興住宅地や集合住宅においても、供給後の転売や転用によって、同系の民族集団によって近隣が占められていく傾向があり、事実上の民族別住み分けが起きている。

このような、民族集団ごとに「家」が集まる傾向は、民族性の差異(文化的・宗教的差異)に起因するものと考えられる。各民族集団間の文化的差異については、信仰や食文化の特徴なども挙げられるが、マレーシアは18世紀来の成熟した多民族社会であり、マレーシア人の実際の間人関係は、それぞれの民族集団の枠を超えて広がっている。都市集中型の経済発展により、出稼ぎ労働に従事するため地方を離れる若者と、地方に残される老親といった家の空間的断絶が顕著になりつつある一方で、労働に従事する場としての都市と儀礼的責務を履行し子を養育する生活の場としての地方は、断絶されたものではなく頻繁な往来により拡大されたひとつの生活圏として認識されているという側面もある。また、都市部においては同一地域出身の出稼ぎ民にとってセーフティネットのように機能する家が見られる。つまり閉じゆきながらも開きゆくといった二つの異なる力が作用し柔軟にそのかたちを変えるマレーシアにおける民族集団ごとの「家」の現代の特徴を考えるためには、「異動」という切り口から人びとと家の関係を現地調査に基づき通時的・多角的に考察すべきであり、また民族差を超えて創出される「マレーシア人」という同化圧力の内実と範囲を明らかにすべきである。

2. 研究の目的

マレーシアは、マレー人、中国系マレーシア人(華人)、インド系マレーシア人、そして多くの少数民族から構成される多民族国家である。と同時に、それぞれの民族はそれぞれに固有の文化的・社会的特徴を維持している「複合民族国家」である。本研究では、マレーシアの複数の民族集団の

「家」の、都鄙をまたがって存在する特徴を、現地調査から明らかにする。その所見から、マレーシアの文化としての新たな「マレーシア人の家」の成立の可能性を批判的に考察し、消長伸縮するマレーシア多民族社会における家構造の通時的かつ多角的に比較研究することを目的とする。柔軟にかたちを変えるマレーシアにおける民族集団ごとの「家」の現代の特徴を考えるために、「異動」という切り口から人びとと家の関係を現地調査に基づき通時的・多角的に考察し、また民族差を超えて創出される「マレーシア人」という同化圧力の内実と範囲を明らかにする。

3. 研究の方法

研究の主たる方法は、研究組織3名による長期の現地調査である。3名それぞれ調査対象民族の社会において住空間調査を行う。三年間三段階にわたる現地調査の成果を最大化できるよう、各調査前後にもつ研究会議により、研究グループとしての共通目的に沿ったデータを取得できるよう調査計画を検証、修正を行った。

調査開始前には事前に研究会議をもち、問題意識の深化と各自調査計画の相互検討を行った。研究代表者(三浦)および研究分担者(益田・櫻田)の3名は、後述するそれぞれの担当対象社会・民族についての情報の共有を図り、と同時に、マレーシア国内に限らず、居住や移動とそこで生成される人間関係に関わる資料や先行研究・民族誌等を精査・分析し、「家」の構造に関わる理論的問題系の整理を行った。

研究組織3名は、問題系と人類学的調査法を共有しつつ、下記の民族集団別・地域別の分担により、マレーシア各地で調査を実施した。

マレー人(クランタン州): 益田岳

華人(ジョホール州): 櫻田涼子

ボルネオ先住民(サラワク州): 益田岳

ボルネオ先住民(サバ州): 三浦哲也

研究組織の各員は当該地域社会にて十分な調査経験を有す。よって、フィールド調査を実施する上で技術的・言語的な問題は無く、調査対象社会と綿密な人間関係が既に構築されていることから、「家」という場所で人々がどのような生活を営んでいるのかという具体的で、質的に充実した資料を得ることが可能であった。

対象民族それぞれにおいて以下の各点について重点的な資料収集を行った。これらはいずれも、「家」で実践される人間関係を理解するための基礎的資料となった。

(1) 家族・親族の集団原理

(2) 「家」の構成員の加入・脱退の機会となる人生過程

(3) 「家」を現場として行われる(食事から礼拝まで)様々な日常的行為

(4) 「家」と生業とのかわり

(5) 前4項と、家屋の構造・空間利用と

の関係について

(6)「家」という場所を中心に構築される様々な人間関係

(7)「家」の構成員の変化にともなう空間利用の変化について

(8)「家」をめぐる移動の実態

3年間の現地調査および文献調査の結果から、分析と総合を行った。各員は、それぞれがフィールドで得たデータを相互に批判的に検討しながら、その分析を深化させるため、ワークショップを開催し、現地調査の結果の報告を行い、隣接地域の研究者との議論を行った。

4. 研究成果

本研究では、マレーシアにおける複数の民族集団の「家」の特徴の通時的・多元的な比較研究を行った。「家」を単なる構造物としてとらえるのではなく、家族の成員に限らないさまざまな人々が多様な人間関係を実践する現場として、あるいはそこに内包される人間関係の発展に応じてそれ自体の形態と構造が変化する動的なものとして分析を行った。そこから、「家」においては、容器（建築物としての家屋）とその中身（家財とその配置）、これら二つを構成する力学（そこで実践される人間関係の三者の交互関係に、各民族集団の特徴が現出することが明らかにされた。また、「家」の特定空間において展開されるさまざまな行為のうち、特に食に関わる実践が社会関係のダイナミクスに大きく影響していることが明らかになった。

そこで、「家」空間で展開される食実践と社会関係のダイナミクスについて、2度のワークショップを開催した。1度目のワークショップ「食からみる「つながり」の文化人類学的研究」（於・東北大学東北アジア研究センター、平成25年3月24日）において、「家」を現場として行われる食事や饗宴を通じて構築/形成/維持される人間関係の動態について、櫻田と三浦がそれぞれ研究報告を行った。さらに、益田も2度目のワークショップ「家・空間における食実践に関する文化人類学的研究 社会関係を開閉するという視座から」（於・東北大学東京分室、平成26年10月11日）においてイバン族が家庭内で醸造・消費する醸造酒が人間関係を開閉する事例について報告した。

2度のワークショップでの研究報告に基づいて地域研究者との議論を深めながら、研究分析の精緻化を進めた。その結果、「家」空間で展開される「食」と社会関係の動態について、マレーシア一國にとらわれず、より広い（具体的には東南アジア、東北アジア、オセアニアの諸社会など）地域との通文化的比較考察も可能であることが明らかになった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線）

〔雑誌論文〕(計 8件)

三浦哲也、「ドゥスン族の焼畑用地の利用パターンの変化」、『育英短期大学研究紀要』31号、pp45-55、査読有、2014年

Ryoko SAKURADA, Emerging Chinese Public Sphere in Multi-ethnic Malaysia: A Case Study of Hungry Ghost Festival and Philanthropic Activities, 2013年度京都大学南京大学社会学人類学若手ワークショップ報告論文集、査読無、京都大学アジア研究教育ユニット、53-57、2013

Ryoko SAKURADA, Film Review: Old Places, Journal of Intimate and Public Spheres: Asian and Global Forum, Kyoto University, 査読無、2(1): 145, 2013.

櫻田涼子、「新聞記事にみるマレーシア華人の社会関係の変容：『星洲日報』1929年から2012年の告知記事の分析を通じて」、『白山人類学』第16号、109-131、査読有、2013年

SAKURADA, Ryoko, 2013 'From My Bookshelf: Old Places (2010)' Journal of Intimate and Public Spheres, Kyoto University, vol. 3、145-145、査読無、2013年

SAKURADA, Ryoko, 'Film Review: Diary of an Ethnologist in China.' Asian Educational Media Services E-Newsletter, winter issue, University of Illinois at Urbana-Champaign.

SAKURADA, Ryoko, 'Knowledge among Nanyang Chinese and the Role of Newspapers', 『2012年度京都大学南京大学社会学人類学若手研究者共同ワークショップ報告論文集』pp.21-26. 査読無、2013年

櫻田涼子、「理想の家族、現実の関係：再編されるマレーシア華人社会の親族関係」、『京都大学文学研究科グローバルCOE次世代研究77』、全37頁、2013年

〔学会発表〕(計 18件)

三浦哲也「酒がとりもつ人間関係 東マレーシア・ドゥスン族社会の酒宴から」、『日本文化人類学会第49回研究大会、2015年5月31日、大阪国際交流センター（大阪市）

櫻田涼子、「セイフティネットとしての＜公共＞ マレーシア華人の儀礼コミュニティを中心とした自発的結社慈善活動について」、『日本文化人類学会第49回研究大会、2015

年 5 月 31 日、大阪国際交流センター（大阪市）

櫻田涼子、「過去 にアイデンティティを見いだす：マレー半島華人社会の珈琲カルチャーとレトロブームの展開」京都大学東南アジア研究所共同研究：インドネシアにおける海南系華人のネットワーク構築に関する人類学的研究、京都大学（京都府京都市）2015 年 2 月 15 日。

Sakurada Ryoko, 'An Imaginary Homeland and Consumption of Nostalgia: Kopitiam and Hybridity of Nanyang Chinese', the annual meeting of AAA, Marriott Wardman Park & Omni Shoreham, Washington DC, USA, December 6 2014.

櫻田涼子、「スルタンの祝祭空間で豚を解体する：多民族国家マレーシアの住宅団地における華人の宗教実践」平成 26 年度筑波大学重点公開講座「じんるいがくカフェ」2014 年 11 月、筑波大学（茨城県つくば市）

益田岳、「イバンはなぜ酒を造り続けているか」、東北大学東北アジア研究所共同研究ワークショップ「家・空間における食実践移管する文化人類学的研究 社会関係を開閉するという視座から」、2014 年 10 月 11 日、東北大学東京分室（東京都千代田区）

櫻田涼子、「マレーシア華人社会における中元節儀礼「盂蘭盆会」の都市的構造」、東南アジア学会第 91 回研究大会、2014 年 6 月 18 日、南山大学（愛知県名古屋市）

Sakurada Ryoko, 'Social Body of Chinese Women: Exclusion and Inclusion of Female Corporeality from/in the House in Malaysia', Panel: Anthropology through the Experience of the Physical Body, the annual conference of IUAES, Makuhari-messe, Chiba Japan, May 18 2014

Sakurada, Ryoko, "Creating Chinese Public Sphere,: A Case Study of Hungry Festival and Philanthropic Activities in a Housing Estate of Malaysia", 南京大学社会学院人類学研究所“宗教與文化”交際学術研討会、2014 年 4 月 26 日、南京市（中国）

櫻田涼子、「社会行為としての食をめぐる文化人類学的研究」、東北大学東北アジア研究センター研究成果報告会、2014 年 3 月 28 日、東北大学（宮城県仙台市）

櫻田涼子、「甘いかおりと美しい記憶 マレーシア華人のコピティアムをめぐるノスタルジアについて」、東京外国語大学アジア

ア・アフリカ言語文化研究所共同研究課題「多元的想像・動態的現実としての「華人」をめぐる研究」研究会、2014 年 2 月 7 日、東京外国語大学（東京都府中市）

櫻田涼子「語られ、共有される 美しい過去 南洋華人とそのふるさと」、日本華僑華人学会 2013 年度第 2 回研究会「新たな僑郷研究の展開 国内・国外からの視点」、2013 年 12 月 14 日、立教大学（埼玉県新座市）

Ryoko SAKURADA, An Imaginary Homeland and Emerging Café Culture on the Malay Peninsula: Kopitiam, Nostalgia, and Collective Memory, 日本華僑華人学会 2013 年度研究大会（分科会 Anthropological Studies on the Localization of Chinese Food Business in Southeast Asia: Restaurant, Café, and Farm House）、2013 年 11 月 17 日、慶應義塾大学（東京都港区）

Ryoko SAKURADA, Emerging Chinese Public Sphere in Multi-ethnic Malaysia: A Case Study of Hungry Ghost Festival and Philanthropic Activities, 京都大学・南京大学社会学人類学若手ワークショップ、2013 年 8 月 12 日、京都大学（京都府京都市）

櫻田涼子、「読み替えられる儀礼 盂蘭勝会から立ち上がる華人公共圏」、日本文化人類学会第 47 回研究大会、2013 年 6 月 8 日、慶應義塾大学（東京都港区）

櫻田涼子、「美しい過去をめぐる言説 マレー半島の華人とコピティアムと故郷をめぐる集合的記憶」、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究課題「多元的想像・動態的現実としての「華人」をめぐる研究」研究会、2013 年 5 月 11 日、東京外国語大学（東京都府中市）

櫻田涼子、「華字紙『星洲日報』創刊時の東南アジア華僑と中国本土の関係」、国際シンポジウム「漢族社会におけるヒト、文化、情報の移動」、2012 年 11 月 4 日、国立民族学博物館（大阪府大阪市）

SAKURADA, Ryoko, 'The Dynamic Relationship over "Knowledge" among Nanyang Chinese and Newspapers', 京都大学・南京大学若手研究者共同フォーラム、中国・南京大学、2012 年 9 月 21 日

〔図書〕(計 3 件)

Sakurada, Ryoko, 'Working in the City and Rearing Children in the Hometown: Women-centered Relationships of a Patriarchal Chinese Family in Peninsular Malaysia', Ijichi Noriko, Atsufumi Kato,

and Ryoko Sakurada (eds.), Rethinking Representation of Asian Women: Changes, Continuity, and Everyday Life, Palgrave-MacMillan, forthcoming.

櫻田涼子、「家庭内祭祀から公共領域へマレーシア華人社会における「盂蘭勝会」の都市的構造」、『往還する親密圏と公共圏』、査読有、京都大学学術出版会、2014年、59-88.

櫻田涼子、从房屋到家-馬來西亞華人的廉价房屋居改造及日常实践 田中仁・江沛・許育銘(編)《現代中国變動與東亞新格局》中国(北京):社会科学文献出版社、70-81頁、2012年

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三浦 哲也 (MIURA, Tetsuya)

育英短期大学・現代コミュニケーション学
科・准教授

研究者番号: 80444040

(2) 研究分担者

益田 岳 (MASUDA, Gaku)

京都大学・地球環境学堂・特定研究員

研究者番号: 00455916

櫻田 涼子 (SAKURADA, Ryoko)

育英短期大学・現代コミュニケーション学
科・准教授

研究者番号: 30586714